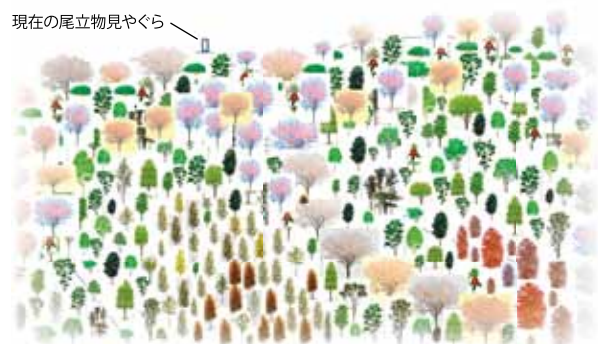


「イオンの森」での森づくりにおいては、地域特有の豊かな自然環境を復元し、そこから生まれる農業・林業などの生産活動や環境学習、観光に活用できるさまざまな取り組み

図1 綾町イオンの森の50年後のイメージ



現在の尾立物見やぐら

これからの森づくりには町の皆さんの協力が欠かせません。私たちの身近にあるふるさとの森が、将来どのように育っていくのか、私たちの子孫に豊かな森を引き継いでいけるように一緒に見守っていきましょう。

多様な活動の核となるイオンの森の未来像

照葉樹林を守ることで持続可能な地域づくりを展開してきた綾町には、自然との共生を目指す理念があります。それはユネスコエコパークの理念とも共通し、イオン環境財団の「平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念にも共感するものがあります。こうした背景から、綾町は同財団と連携し、新しい植樹のあり方を探っていくことにしました。

みを育てていくことを目標に掲げています。

図1は、イオンの森の50年後の姿をイメージしたものです。綾ユネスコエコパークの移行地域にある「里山林」として、自然生態系農業やグリーンツーリズム子どもたちが自然と触れ合う学習などが行われる中核的な森になり、保全と利活用が進んでいるという未来像を描いています。

ふるさとを未来に引き継ぐために

綾町は自然と共生する地域づくりに約半世紀かけて取り組んでおり、100年かけての森づくりや綾の照葉樹林プロジェクトによる森林の保護・復元が進められてきました。来年度には、新たな森林整備計画も策定されることになっています。さらに、私たちが生活を営んでいる里地・里山地域を核とした「綾の森林づくりビジョン」という将来構想も動き始めようとしています。

未来に向けた 木木木 づくり

新しい取り組み
スタート!



イオンの森から
里山の再生を目指して

綾町と公益財団法人イオン環境財団は、日本最大規模の照葉樹林を持つ綾ユネスコエコパークの美しい里山づくりを目指して、割付町有林での植樹・育樹に取り組んでいます。11月4日に行われた「綾町イオンの森づくり（綾町育樹祭）」では、町内外から参加した200人がヤマザクラやヤブツバキなど約1200本の照葉樹の植樹を行いました。

綾町と同財団は、綾中学校の校舎建て替えのため伐採された町有林を照葉樹林に復元しようと、平成25年から3年間にわたり、地域に自生する樹種1万5千本を延べ1750人のボランティアの皆さんと一緒に植樹してきました。本年度からは、ユネスコエコパーク

の機能に基づいた新たな森づくりがスタートしています。

「緑の量」から
「緑の質」へ

近年、地球規模の環境問題が懸念されている中で、単に「緑の量」を増やす植樹活動から、生物多様性の保全や持続可能な地域の発展に向け、「緑の質」に着目した植樹活動の必要性が世界的に高まっています。

今までの森づくりでは、地域本来の樹種選びを考慮することはあっても、地域全体を同じように植栽するのが一般的でした。地域の地形的な特徴に合わせ、樹木が将来どのように成長し、どのような森を構成するようになるのか、そしてどう活用していくかという未来を見据えた取り組みはほとんどなかったのです。





ユネスコエコパーク通信

コラム

マユタテアカネ

秋を代表する生き物で、童謡にも出てくる赤トンボ。実は、意外にたくさん種類のいることを知っていますか。

一般に赤トンボと言われてるのは、アキアカネという種類ですが、同じ時期に別の種類もたくさん飛んでいるため、秋に見られるアカネ属のトンボ（赤いトンボ）のことを総称して「赤トンボ」と言われることが多いようです。

その中でも目に付きやすいのが「マユタテアカネ」。顔面中央にある黒いチョビひげのような模様が大きな特徴です。赤トンボの仲間は町内でも5種類以上確認されています。比較的寒い時期まで観察できますので、チョビひげの赤トンボもぜひ探してみてください。



「つれづれ日誌」

地域おこし協力隊

本誌10月号の表紙を飾ったオオクチバス（通称ブラックバス）の写真は、ご覧になりましたか？これは外来生物法で特定外来生物に指定されている魚種で、再放流や移動ができないのはもちろん、飼育もできません。釣った場合は、その場で処分することしかできないのが現状です。

でも、ひとついい方法があるのです。

オオクチバスは北アメリカ原産の魚で、ルアー（疑似餌）釣りの対象魚とされています。アメリカには、魚釣りを楽しませてもらった感謝の意味を込めて、釣った魚をその場に放す「キャッチ&リリース」という文化（水産資源を守るなど諸説あり）がありますが、日本でそんなことをしていたら特定外来生物がどんどん増えてしまいます。日本の原風景を守っている綾町でも、繁殖能力の優れた外来種が在来種の存在を脅かしているのです。

もともと日本では、魚釣りは食糧を得るための手段です。だから釣ったら食べるのが、日本の狩猟文化だと私は思うのです。そう、「キャッチ&イート」です！釣ったその場で絞めて持ち帰り、塩を振ってぬめりを取った後、3枚におろして塩こしょうと小麦粉をまぶしてフライに。オオクチバスはスズキの仲間、見た目や味もスズキに似ているので、本当においしく食べられるのです。綾の自然生態系を守るため、我が国の食料自給率を守るため、「キャッチ&イート」を強力にお勧めします！

ただ、先日の調査で仕掛けたワナに入っていた、同じスズキ目のカムルチー＝写真＝は…要注意外来生物なのですが、あまりにもグロテスクで食べる勇気が出ません。どなたか勇気のある方、ぜひ食し方を教えてください。

綾町地域おこし協力隊

すぎもと だい
杉本 大